

大阪みやげ

滞在僅に一週間、其交際の範圍もまことに限られ

て居る、従つて、其土産といふものも、まことに金のかゝらない、ケチな御品物と御承知を

乞はねばならぬ。

牧羊

夏の大坂 東京の夏を知る者には、容易に大阪の夏の如何が推知せられよう。櫛の歯の如くに並んだ瓦屋根から照り返す夏の日の熱き、空を衝いて屹立せる幾多の烟突から吹きでる煤煙、肩摩轂擊たる心齋橋筋、千日前の人波、以て空氣を洗ふべく以て人目の疲勞を助くるに足るべき綠樹の缺乏せること、凡そ之等の要素は、此頃の大阪を想像するに足るべき好個の材料である。但しかく一概にいつて仕舞へば夏の大坂たるもの如何にも殺風景極まるものであるが、然も、所變れば品變る、

他の都會に在つて容易に見るべからざる夏の一景は、所謂

納涼船である、納涼船は夏に於ける大阪人士唯一の娛樂と見える、人若し試に行って、淀川の畔天神橋、難波橋の際に立たんか、片舟に行燈ともして、三人五人の男女乗り合ひたるもの陸續として河下より遡りては此處に集まり、遂には川の面一面に行燈の火で覆はれるのを見るであらう。これは確に東京邊りでは、さう簡単に得られる夏の夕の遊である。之に因みていふは

納涼臺である、中の島の東の端に當つて、大凡そ六七十間の長さの臺を造つて、川中に突き出して居る、此處に遊べば、新聞縦覽所あり、幕會所あり、射的場あり、落語あり、而して氷店、而してビーヤホール、入場料三錢を拂つて、蒸される

様な夏の半夜を此處に過ぐる人、この界隈に頗る多い。納涼臺には、か様な譯で、毎夜何千とも知れぬ人が集つて居る故一寸見ると、如何にも涼しくはなさそうだが、川中丈けに多少の涼を貪る事が出来るが、涼しそうで、其實涼しからざるは彼の納涼船だとは一般の人の言ふ所、我が経験も確にそを證據立てたのであつた。

中の島公園 これが、大阪市唯一の公園とは、情ない話であるとは、此地の人士も夙に口にする處である。こゝに壯大な圖書館がある、住友家から市に寄附したものである、公會堂がある、博覽會の節協賛會の建設したものを其儘市に寄附したため、悠に三千人を容れることが出来る。教育のためとか、慈善の爲ならば市では無料で貸す。大阪ホテルがある、當地第一のホテルで東京の帝國突堤は木津川より起つて、延長一千八百五十五間

ホテルと匹敵すべきもの、併し、其處の洋食料理は、夫程には行かないのだと或人の話であつた。豊國神社がある、規模は稍見るに足るといへ様、所謂、中の島公園といふものも、若し、之等の建物までも、悉皆取り入れてあるとすればまだしもだが、猫額の大所に、僅な矮樹と青草とでは、丸で、人間のええものを見る様な調子で、とても公園として此界隈數十萬の人を樂しましむることは出来ない。次に、すつと西に飛び離れるが、築港のことである、これは近年大阪市の經營にかかる最も見るべきもの、一つで、其規模計畫いかにも壯大なもので、北突堤は安治川を内に含めて、海中に突き出すこと一千五百九十二間、南突堤は木津川より起つて、延長一千八百五十五間而して、新埋立地の中央から、港内に突き出せる

桜橋は長さ二百五十間、幅十五間、若し此工事の完成出来た暁は、市の壯觀、はた幾倍の光を増すであらう。

此築港は、今の處では一の納涼場となつて居るのである、而して、茲に至るには凡そ一里許り、新開の大道路一直線に通する所に電車を運轉して居る、東京市のよりは、速力も早くつて、夫に、二階附の電車などがあるのは一步進んで居るといはねばならぬ、夕景からかけてそこに行くと、さすがに遠く隔たつてゐるから、彼の納涼臺から見ると雜沓が少くつて、且つ何しろ、海中だから遙に涼しい、橋の兩側には、蹲居して太公望を氣取るもの、三々又五々。其尖端には、ピーヤホールあり以て簡単に夕食を認むるを得べしである、夕食の序に豫ねて、世の諺にまでなつて居る、京の衣倒すであらう。

れ、界の建て倒れ、大阪の食ひ倒れ、に付きて、所の人士の説を聞いた、大阪の食ひ倒れ、一寸聞くと、東京邊りで言ふ食ひ道樂と同意義に聞こゆる、料理のハイカラを尊ぶといふ風に取れる、が、事實は全く違ふ、食物の味を吟味して、どこまでもハイカラ的に料理に金をかけるといふよりも、寧ろ、不味くつても量の餘計なるを尊ぶといふ意義である、故に、ピーヤホールに入つても、必らずしもカツフキ一を望めない、况んやケーキをや、更に况んやスープをや其代り、以て腹を肥すべき料理は敢て心配するには及ばない。

ピーヤホールの咄の序に、尙一つ他郷人の目に付くものを紹介しよう、他でもない、之等のピーヤホールとか水屋とかに於ける

給仕女の服装である、蓋し蝦茶式部といふ語を

車夫は比較にならない。

六十六

以て、當今の女學生の一名とすることは、少くとも、此大阪に於ては通用しないのである、如何となれば、當地に於ける之等の給仕女は悉く蝦茶袴を着用して居るからである、先年の博覽會の遺物と稱するものが甚だ多いのであるが、給仕女の蝦茶袴も亦其一たることは、識者の夙に了知せられる所だと信ずる。

○○○人力車賃錢の廉なと足の疾いのとは、夙に大阪人力の特徴であつたのだが、今日に於ては、少くとも、其一特徴は失つた、詳にいふと、賃錢はこゝ十年前から見ると、大方五六倍の騰貴だ、而して、昨年の博覽會以後は更に著しく上つたといふこと、但しさすがに、車夫の足の疾いのは心地がよい、此點につきては、概して言ふと東京の

宮城縣保姆養成所

同縣師範學校内に開きたる同所第一回卒業生の實地保育は、其兒童二百名に及び非常の好成績にて先月二十二日終了せりといふ。